

小金井市環境市民会議は、市が「小金井市環境基本計画」で掲げている「緑・水・生きもの・人 わたしたちが心豊かにくらすまち 小金井」を実現するため小金井市環境基本条例で設けられた市民団体です。さまざまな環境面からのまちづくりで、市と協働して取り組んでいます。

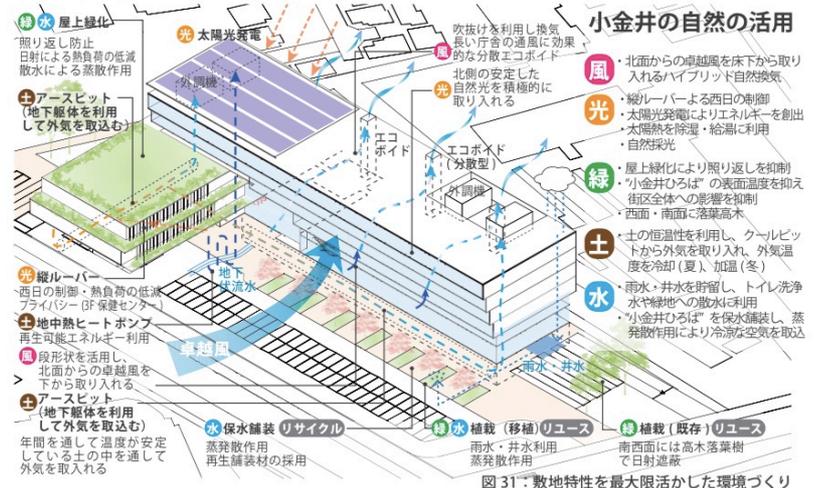
## 4つの新たなプロジェクトが進行中です

### 新庁舎・新福祉社会館プロジェクト

現在、基本計画を策定中の新庁舎・新福祉社会館について、9つの「意見」を小金井市環境基本条例に基づき、2019年2月に西岡市長に提出しました。それがどのような形で実現されようとしているのか。あるいは、されないのかをフォローアップしています。2、3ページにその詳細を掲載しています。(右の図は、委託業者による「技術提案書」から)

#### ① 小金井の自然を活用した快適な環境づくり

・小金井の自然（風・光・緑・土・水）がもつエネルギーを活用した上で、高効率設備を無駄なく運転し、快適な環境を実現します。



### 滄浪泉園と環境楽習館をつなぐプロジェクト

環境楽習館は、市民の憩いの場である滄浪泉園と隣接しています。ふたつの施設の行き来が自由になれば、きっと素敵な変化が生まれるはずです。

### 「第2次小金井市環境基本計画」評価プロジェクト

小金井市の環境政策のあり方や目標を示す「第2次環境基本計画」は2020年度まで。新しい計画づくりに向けた作業がすでに始まっています。環境市民会議は「市民の目線」で、第2次計画での重点的な取り組みがどこまで進み、何が課題として残っているかを評価し、新しい計画づくりに生かしてもらいます。

### 「環境家計簿」導入プロジェクト

お隣の小平市では、市民の省エネ意識を高めるために、ウェブサイトやアプリで「環境家計簿」をつくっています。小金井市でもやりませんか？ そう市役所に働きかけ、一緒に知恵を出し、汗をかこうというプロジェクトです。

**新庁舎・新福祉会館の基本設計策定にあたり**
**西岡市長へ 2019 年 2 月に提出した「意見」**

小金井市の新庁舎・新福祉会館の基本設計にあたり、小金井市環境市民会議は小金井市環境基本条例第 27 条に基づいて、下記の 9 項目の要望を含む「意見」をお伝えします。また、私たちの「意見」がどのように基本設計の策定過程で反映されているかを、適切な時期にご説明をお願いしたいと存じます。

**〈水と緑の小金井に相応しい新庁舎・新福祉会館〉を**

◆近年、小金井市内の緑被率が低下している現状を踏まえ、ソフト、ハード両面で「水と緑の小金井」を象徴するような新庁舎・新福祉会館にしてください。具体的には、

(1) 敷地内には可能な限り芝生、樹木、屋上緑化、花壇を配置する。

(2) 市庁舎エリア内の緑は、玉川上水・小金井公園から野川・武蔵野公園へと連なる生物（鳥、昆虫など）の移動を助ける「緑の飛び石」の役割を果たすようにする。

◆2008 年に開催されたイベント「雨を活かすまちづくり 50 年の継承」の八市長サミット宣言や「小金井市の地下水及び湧水を保全する条例」を実現し、雨水活用のための貯留と浸透への機能を強化してください。具体的には、

(3) 屋上や屋根及び壁面に降った雨は貯留または浸透させる。雨水は下水道に流さず 100%活用（浸透・貯留・利活用）する。

(4) 井戸水位ディスプレイを設置してリアルタイム表示で地下水位を見える化し、“水と緑の小金井市”を PR すると同時に市民や職員への“水の大切さ”の啓発を進める。

(5) 「地下水保全会議」で出された意見を十分活用した上で、水循環に配慮した業者を選択し指導する。

**〈地球温暖化対策と持続可能な社会づくりに向けた新庁舎・新福祉会館〉を**

小金井市は、「小金井市地球温暖化対策地域推進計

画」を定め、「小金井市地球温暖化対策実行計画（市役所版）」をたてるなど施策を進めてきました。しかし、CO2 排出量は削減どころか増大しており、こうした現状を改善するために、他の自治体の先進的事例をも十分反映してください。

また、小金井市の重要な財産である「環境楽習館」の建設で示された理念、手法を活かし、新しい市庁舎と福祉会館が次世代に引き継がれるべき環境配慮型庁舎となるようにすべきです。例えば、

(6) 建築物の「環境品質」と「環境負荷」を同時に評価する「建築環境総合性能評価システム」（Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency=CASBEE、キャスビー）で、長寿命でライフサイクルを通じて CO2 排出量を少なくするために最高ランクの「S」を取得する。

(7) エネルギー消費量の大幅な削減目標を定める。

(8) 調達する電力については自然エネルギー 100%を目指す。

**〈水と緑を活かした防災拠点としての新庁舎・新福祉会館〉を**

首都直下型地震がいつ起きても不思議ではありません。新庁舎・新福祉会館は、まさに防災拠点として重要です。その観点からも「水と緑」を活かす必要があります。例えば、

(9) 防災利用可能な雨水貯留設備（消火、緊急時の生活水他）や手押しポンプ式井戸などを設けて市民がいつでも活用できるようにし、飲用水用深井戸の給水拠点と合わせて水の供給拠点となるようにする。

最後に、環境市民会議は小金井市環境基本条例に基づき、小金井の環境を守り続ける市民の代弁者としての責任を持って活動をしています。この条例の理念が確実に生かされること願い意見を述べさせていただきました。ご検討のほどよろしく願いいたします。  
(以上)

# 2019年11月時点での市の回答は・・・

koganei-kankyo.org



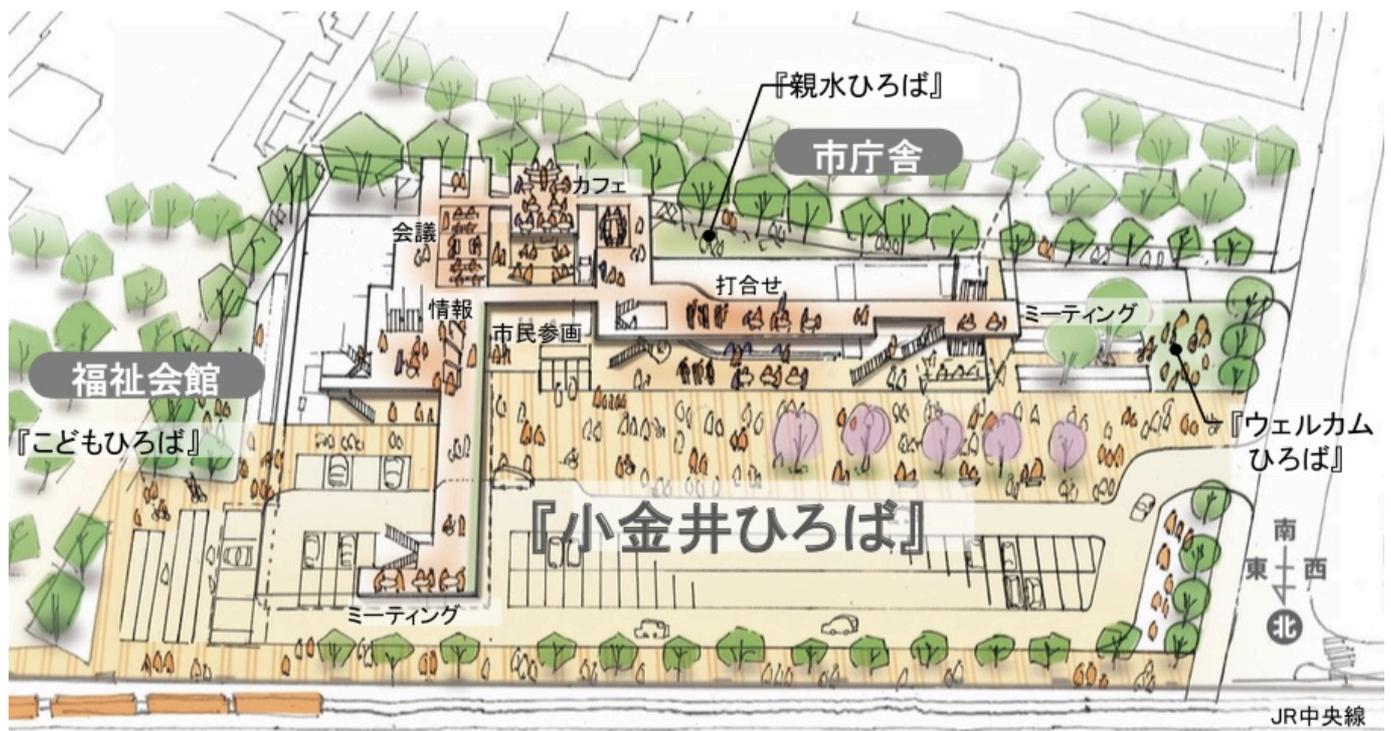
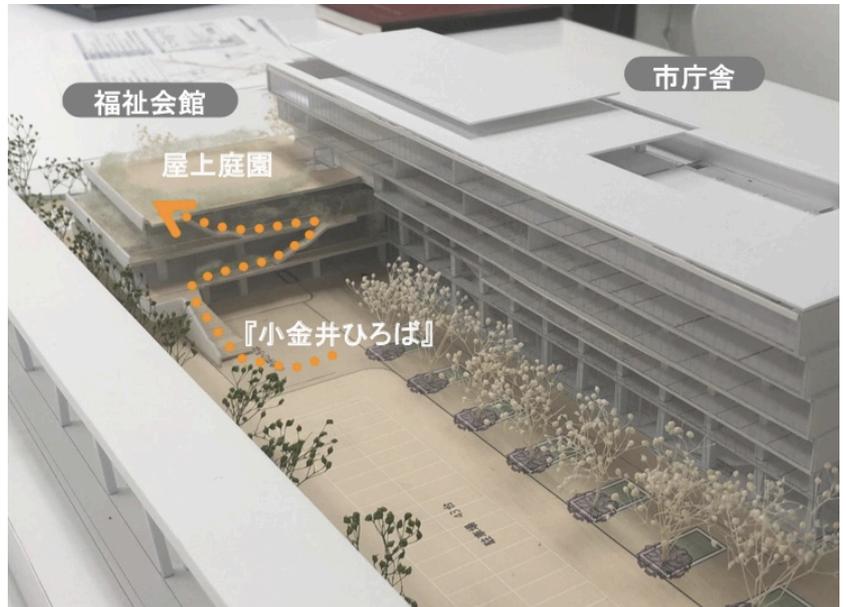
小金井市環境市民会議

環境市民会議運営会は11月5日、小金井市の担当課から説明を受けましたが、現時点では9つの「意見」について基本設計でどのように反映されるかはまだ確定的に言えないとのことでした。

代わりに示されたのが、10月27日に実施された「設計レビュー」(前期レビュー)でのスライド資料。設計レビューとは、小金井市によれば「公募プロポーザルの技術提案書やこれまでの議論、検討の経過等を踏まえ、進捗確認を行うため」のものです。

9つの「意見」に関する部分を小金井市のご了承を得て、ここに掲載します。

地下水を活用した「親水ひろば」や「屋上庭園」が検討されているほか、「こどもひろば」や「ウェルカムひろば」も、緑に親しめる空間となるようです。





### 環境学習部会

親子参加の稲作体験「田んぼの時間」、生き物調べ、クラフト教室、小学校の学習支援を行っています。



### 地下水測定部会

「はけ」から湧き出て野川に流れる湧水の量、水質を定期的に測定し、小金井の「水」をみつめています。



### 緑調査部会

市内の緑地、公園、庭先、農地などの「緑」の調査から、小金井の緑地マップを作成しています。



### はけの環境部会

「はけ」とも呼ばれる国分寺崖線周辺のゆたかな環境をまもるため、関係機関へのはたらきかけや、広報活動を行っています。



### まちづくり部会

住みやすいまち、環境に配慮した暮らし方や、コミュニティづくりを提案しています。



### 生活環境部会

身近な生活に関わる食・住・教育環境の改善や動植物との共生等とその実現へのコミュニティづくりを目指します。

### エネルギー部会



市の「地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、省エネの推進と太陽光発電機器の普及に取り組んでいます。

このニュースレターは、小金井市環境市民会議の運営会が作成・発行しました。環境市民会議は、市民に開かれた団体です。緑、水、「はけ」、身の回りの環境、自然エネルギーなどにご関心のある方はぜひご参加ください。小金井市役所環境政策課のご支援をいただきながら、部会を中心に活動し、横断的なテーマはプロジェクトを立ち上げ、取り組んでいます。詳しくは「小金井市環境市民会議」で検索してみてください。

お問い合わせは、事務局までメールでお願いします。 [jimukyoku@koganei-kankyo.org](mailto:jimukyoku@koganei-kankyo.org)